

西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第493号 平成26年9月・10月



平成26. 27年度 西多摩医師会新執行部発足

目 次

	頁		頁
1) 新役員の挨拶	広報部 … 2	8) 西多摩地域糖尿病医療連携	
2) 感染症だより	西多摩保健所 … 8	検討会からの今月のメッセージ	野本正嗣 … 16
3) 専門医に学ぶ	岡本昭彦 … 10	9) 納涼の夕べ	朱膳寺洋文 … 16
4) 広報だより「残心」	湯田 淳 … 12	10) 理事会報告	広報部 … 17
5) 連載企画 北格アリナ滞在記 その1	土田大介 … 12	11) 学術講演会予定	事務局 … 26
6) 東京都医師会・西多摩医師会 産業医研修会報告	馬場眞澄 … 14	12) 会員通知・医師会の動き	事務局 … 27
7) 高血圧ガイドライン2014を活かす	下澤達雄 … 15	13) お知らせ	事務局 … 30
		14) あとがき	松崎 潤 … 30
		15) 表紙のことば	広報部 … 31

新執行部の発足にあたって



一般社団法人 西多摩医師会
会長 玉木 一弘

私は22年前の'92年から19年間本会役員に在りましたが、'03年からの8年間は東京都医師会理事を兼任し、本会実務に充分な働きができず申し訳なく思っておりました。この度、会長として再び機会を与えて頂きましたことに、心から感謝申し上げます。

その22年前の松原会長諮問「西多摩医師会今后の在り方委員会」答申をこの機に紐解いてみました。「・低出生高齢化、価値観の多様化・社会構造の変化・権利意識の拡大を背景に、生と死の定義や質に踏み込んだ、医療についての社会的コンセンサスが根底から問い合わせられている。・医療の主体は医師の手を離れつつあり、有限で統制された財源と行政管理の下・より厳しい評価と選択にさらされるだろう。・医師会に問われる事は、先駆けた意識改革と研鑽をもって・保健・福祉・医療に関する適確なビジョンを社会に提供し・実現に努め・主張し向上する為の組織的、財政的、学術的基盤を確立することにあろう。・」そこには、現在に通じる古くて新しい課題がありました。

“社会貢献と自己研鑽”を掲げる定款を踏まえ、これから医師会は何を活力に、どのような道を進むのか。初心を振り返るとともに、次世代の医師達の“医師会加入の意義”は何かという現実的な問いにも、真摯に向き合わねばならないと感じました。

今、医師会は住民を守り道を切り開いて前進しているのか、それともしんがりで切り結んでいるのか。会員の皆様はどのように感じておられますか。

私のつたない体験では、その両方の活動が、

日医であれ、都医であれ、津々浦々の地区医師会であれ、それぞれの役割の中で日常的に行われており、それが糸のように絡み合い、理念と現実の狭間で崩れまいとする力を生み、まだ息づいていると感じています。

混沌とした時代の中で心に残るもう一つの体験は、皆様もそうであったと思いますが、医局や研修先や医師会で、何者とも知れぬ若輩に、市井の医師像や専門医師像の何たるかを、自らの喜びとして教えて下さった、多くの先輩方への敬意と憧憬です。

「医師会の活力や道や意義」を見出す方策は何か。単純ですが、先人に照らせば、会員の声を束ね時代の先駆けとなる医療課題解決を案じ、地域特性に見合った医療現場を力を合わせて作り、後輩に託す活動を地道に継続することだと思います。

「活動でそれを実現することができる」という信念とリーダーシップの拠り所として、医師会が在り続けるということです。そこから会員の強い意志、役員の立案力、実行力が生まれ、成果の積み重ねが、さらに困難に立ち向かう力を与えるのだと思います。それが、先人から受け継いできた「医師会の活力」であると思います。

新会館設立、公益法人改革対応が成った今、この力と実りを次世代へ引き継ぐことが、私の主たる役割だと感じています。

今般、西多摩八市町村の行政関係者の皆様を尋ね、久しぶりに西多摩全域を見て参りました。東京都面積の26%を占め、山間の集落、平野部の耕作地と市街地が織り成す広大な生活圏に約40万人が暮し、人口比で都区部の約3分の1の医師数、500名弱で地域医療を担っている現実、少子高齢化・医療資源の偏り・医療関連職の不足・災害時の孤立化リスク等々、都区部とは明らかに異なる医療現場の課題を改めて実感しました。

この地での医療提供の質の確保は、人口減

や大都市集中化が進む中で、西多摩が人や文化や産業が立ち去らぬ、老いや病を抱えてもなお尊厳や生活の質を希求できる地域として存続出来るかどうかに直結し、救急・周産期・小児医療、保育・学校・職場・精神保健、健診、災害・危機対応、医療安全等々、医師会活動の全てが関わることであり、その責任を改めて噛みしめて居ります。

折しも国の例外なき岩盤規制改革が進み、地域医療・介護総合確保推進法も成立しました。現在、地域の保健医療課題の改善については、国及び東京都の施策下に保健所を基軸に、各市町村、医療・福祉・教育関係機関・団体や地域住民の協力で、「西多摩地域保健医療推進プラン」に基づく様々な取り組みが継続されています。がん・脳卒中・認知症・糖尿病・在宅医療、各種研修、多職種連携等、様々な医師会事業もこれに連動しています。今後は、新法により自治体が主体となり策定される地域医療計画や施策を注視し、単に国策の代行ではなく、地域の住民、自治体、多様な業界団体の方々と共に、地域特性を適切に勘案し、会員の医業との調和がとれた、西多摩らしい地域包括ケア作りに参画したいと念願しています。

当面の会務運営では、本年度の事業計画の遂行とともに、社会的要請に応じた次のような課題に、適確に軸足を移して行きたいと考えております。ここでは項目提示に留めますが、役員・各部会・委員会等での検討はじめ、機会あるごとに会員の皆様のご理解ご指導ご協力を仰ぐ所存ですので、どうぞよろしくお願い致します。

【I】 西多摩二次保健医療圏の課題

(1) 地域包括ケアの体制作りの推進（地域医療・介護総合確保推進法への対応）

- ①在宅や施設など様々な“暮らしの場”での療養生活を支える「在宅医療」の充実
- ②急性期・回復期・慢性期等各病床、在宅、介護・福祉施設間の連携の充実
- ③“疾患別医療連携”で培った専門医、か

かりつけ医、介護・福祉等多職種間連携の深化

④新たな課題の抽出と事業開発の推進
(摂食嚥下機能の評価・栄養の確保、食のQOLの向上の取り組みの推進等)

(2) 健診・予防医療の充実

- ①特定健診等に併せた健診付加項目の充実
- ②費用対効果に優れる新たながん健診の導入推進（ABC健診等）

(3) 危機対応の充実

- ①地域防災計画を踏まえた大規模災害や感染症のパンデミック対策の充実
- ②西多摩特有の危機事案を含む緊急時西多摩医師会事業継続計画（BCP）の策定
(大規模災害時に加え、雪・雨や土砂災害での病院・施設等の孤立、施設内感染・火災・事故等々で医療提供の継続が困難となった事案への支援や初動体制の整備等)

(4) 医療事故調査に関する法律への対応

- (5) 死因究明等の推進に関する法律への対応
- (6) 監察医務制度未整備地域における、安らかな見取りと死体検案の諸課題の改善
- (7) 認知症・うつ対応力、精神保健の充実

【II】 会内運営の課題

(1) 医師会事業の短・中・長期的達成目標の明確化と共有

(2) 情報通信技術IT活用の推進

- ①役員、事務局、地区、会員間の情報伝達の効率化と迅速化の推進
- ②会務の意思決定の効率化と迅速化の推進
- ③役員・各部会・各委員会の実務の簡略化、負担軽減の推進
- ④地区・科目、病診、勤務医、世代等多様な立場の会員ニーズや意見集約手段の充実

(3) 新定款や常務改善に係る会内諸規定の見直し

【III】 医療政策提言の充実、発信

西多摩二次保健医療圏の医療諸課題について住民・各種団体・自治体・議会に対し医師会の政策提言を積極的に行い、その実現に向け啓発、理解促進、利害調整、公的支援の獲得等の活動を充実する。

副会長就任の挨拶



鹿児島 武志

このたび副会長を拝命しました鹿児島でございます。どうぞ宜しくお願ひします。前期におきましては、一般社団法人移行、また本会創立100周年記念、新会館設立などの大きな事業に微力ながら貢献させていただきありがとうございました。

世界で最速の高齢者人口の増加とそれに伴う疾病の増大が確実な2025年問題に向けて、地域包括ケアシステムを骨子とする第6期の高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画が本年度より推進されます。このたびの消費税の増税分は社会保障費増大に対しては火消し程度にすぎず、原発非稼働に補う代替エネルギーの輸入により今後も赤字幅は増加し、近未来には国民負担は増税という形で跳ね返ってくることが予想されます。決して十分とはいえない財源のなか、医師会としてどう対応してゆくか、その役割について考えてゆきたいと思います。

また、社会保障制度改革推進本部の専門部会による都道府県別の請求レセプトから得られたビッグデータの分析作業がニュースでは今年度中に遂行される予定です。その結果、予想されるレセプトの平準化は国の目標とする医療費抑制にはつながりますが、我々にとっては同時に保険点数の引き下げにも直結する可能性があり、そのゆくえを注視しなければなりません。現在、TPP条約あるいは控除対象外消費税問題も未解決のなか、我々は医療従事者であると同時に医業の経営にも携わる立場でもありますから、診察室のなかの医療行為以外に、医療費抑制を合目的とする医療行政のゆくえを今後とも的確かつ冷静に見据える必要があると思います。医師会はそれらの「情報」の橋渡し役を果たす大きな使命を担っていると思います。

副会長就任の挨拶



江本 浩

この度、副会長に就任致しました江本でございます。理事1期めに学術部を、2期めに地域医療部を担当させて頂きましたが、これらの活動に際しましては、多くの会員の先生方のご指導並びにご協力を頂き、誠に有難うございました。

今期の私の担当ですが、玉木会長のご指導のもと、経理部、地域医療部、学術部、病院部の4部門に副会長として携わらせて頂くことになりました。これまでの学術部、地域医療部での活動経験を生かし、各担当部長の先生方の活動のバックアップをさせて頂きたいと考えております。

また前期において、地域医療部で立ち上げました災害医療対策会議については、引き続き担当を継続させて頂くことになりました。東日本大震災規模の災害がいつ発生してもおかしくないと思われますので、できるだけ早急に、災害医療コーディネーターの先生方、市町村担当者、消防、警察などの関係団体と連携を深め災害医療体制の構築を進めたい所存です。

医師会活動においては、和が大切だと常々感じておりますので、今後とも会員の皆様のご指導およびご協力の程、何卒宜しくお願ひ申し上げます。



総務部担当就任の挨拶



宮城 真理

この度3期目の理事として総務を担当させて頂くこととなりました宮城です。前2期は学校医部を担当させていただき、諸先生方の御指導並びに御協力を仰ぎ学校医の充実を目指してきましたが、学校保健法の改正による小・中学校の結核健診をはじめとして難しい問題が多数あり、解決までには至らなかつた事項も多く残念に思っております。

今期は微力ながら会員の皆様のご意見を出来る限り汲み上げ、会務が円滑に遂行されますように努力して参りたいと思います。会員の皆様、理事の皆様の御指導・御協力を宜しくお願い申し上げます。

学術部担当就任の挨拶



小林 康弘

このたび理事として2期目となり、前期同様学術部を担当させて頂くことになりました小林と申します。

学術部は、日本医師会の医師生涯教育制度のカリキュラムに基づいて、色々な学術講演会、パネルディスカッション、市民健康講座、臨床報告会、三公立病院主催の講演など多くの年間行事を行っております。昨年度は医師会主催の学術が約30回と月に平均2回～3回のペースで開催しておりました。今年度も昨年に引き続き、各委員の先生方とじっくり話し合いをし、より内容を充実させた勉強会を企画していきたいと思っております

ひとりでも多くの会員の皆様が興味をもって参加でき、また参加して良かった・勉強になつたと思えるような会になれば幸いです。

諸先輩方の御指導、御協力を受けながら頑張っていきたいと思いますので宜しくお願ひ申し上げます。

地域医療部担当就任の挨拶



上田 大介

このたび地域医療部を担当させていただくことになりました土田です。前任の江本先生の際には認知症医療連携委員会が立ち上げられましたが、現在はオレンジプランの一環として認知症疾患医療センターである青梅成木台病院を中心に認知症疾患医療・介護連携協議会が発足しております。ご存知のように認知症対策には医療だけではなく介護や行政が互いに関わっていく必要がございます。医師会の担当理事としてこちらの橋渡し役も出来ればと思っております。

その他、災害医療や精神保健、在宅医療等にぶん幅広い分野が地域医療部に関わっております。各地区長ならびに専門の先生方のお力を借りて活動していくことになりますが、今後ともご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

公衆衛生部担当就任の挨拶



馬場 真澄

この度、公衆衛生部を担当させて頂くことになりました馬場です。開業して12年目になりますが、西多摩医師会の担当理事は初めてですので宜しくお願ひします。

公衆衛生部会は、住民の健康増進と疾患予防を推進する幅広い領域でわたる部会で、特定健診、小児健診などの健診事業とガン検診、定期接種に追加されている予防接種の問題や

(6)

インフルエンザ等の感染対策。母子保健や小児保健。産業医、スポーツ医、公害環境衛生などの産業保健など様々な領域にまたがっております。関連部会や各地区の先生方と連携を計り取りながら進めたいと思います。

また、「難病の患者に対する医療費などに関する法律」が成立して、平成27年1月の施行に向けて準備がなされています。既に指定医療機関・指定医の登録も始まっており、新制度へ移行が混乱なくおこなえるよう情報の収集・情報の提供をしますので宜しくお願ひします。

学校医部担当就任の挨拶



朱膳寺 洋文

前期は福祉部担当でしたが、今期は学校医部を担当することになりました朱膳寺です。

以前より問題になってる少子化、いじめ、学校拒否、最近は子供の生活習慣病、薬物使用の低年齢化等、学校をとりまく環境は年々変化しており、又厚労省、医師会用等からの新しい情報伝達も数多くあり、重責とは思いますが前任者の宮城先生の助言、学校医の先生方の御協力を受けながら頑張る所存です。よろしくお願ひ致します。

病院部担当就任の挨拶



松山 健

このたび本医師会病院担当理事に就任させて頂くことになりました。約4年ぶりの復帰で2回目となります。ずっと病院勤務の小児科医でごく狭い範囲から医療を見てきただけですが、当地区的総合的医療環境の改善のため微力を尽くしたいと思います。何卒よろし

No. 493

く御願い致します。

広報部担当就任の挨拶



古川朋靖

この度、広報部を担当することとなりました、古川朋靖と申します。

広報部の仕事の中心は、会報の発行にあります。以前鹿児島先生のもとで、会報編集委員会に参加させて頂いておりました。しかしながら、いざ会報の編集に着手しますと、分かっていると思っていたことが分かっておらず、前任の奥村先生にご助力を頂きつつスタートを切っている状態です。幸いにも優秀な編集委員の先生方に恵まれ、ご助力のもと仕事を始めさせて頂いております。更に、西多摩医師会の理事という仕事も初めてであり、分からぬことが多いのですが、皆様のお役に立てますように頑張りたいと存じます。

経理部担当就任の挨拶



奥村 徹

この度、前任近藤之暢先生より引き継ぎ、経理部担当理事となりました奥村です。

前任近藤先生の時は、新法人法による変更や新医師会館建設等に関して、様々なお金の流動があり、今回新経理部理事としては、西多摩医師会懸案は減少するのではないかと考えていましたが、玉木新会長のもと理事会にて、まだまだ多数の取り組むべき懸案の多さに驚きました。これから事業がスムーズに運営される様、細かな収支計算を行いたいと考えます。お金の流れは奥村に任せていれば安心と医師会会員の皆様に思っていただける様勉強いたしますので、宜しくお願ひします。

監事就任の挨拶



横田 卓史

この度監事に選任されました横田卓史です。会長在任中は皆様よりご支援を給わりましたこと重ねて御礼申し上げます。さて玉木新執行部には、地域包括ケアの構築や災害医療対策等の課題が山積していますし、古くて新しい課題として、医師会全体や執行部のより一層の活性化が望されます。今後は会長としての貴重な経験を活かして、監事として新執行部とともに西多摩医師会の活動に協力をして参りたいと思います。

宜しくお願ひ申し上げます。

監事就任の挨拶



中野 和広

前期は監事が2人とも青梅でしたので、私としてはワンポイントのつもりで、今期は先輩の大堀先生に続投いただければもう1人は他の地区からとなることを密かに期待していましたが、大堀先生が退任のご意向と伺い、読みが外れました。正直なところ、医師会の監事は50代ではちょっと軽いのではないかという思いもあるのですが、結局、ご推薦をいただき、もう1期続けることになりました。

監事の立場というのは定款や法令を意識するのは当然で、ブレーキ役も期待されるわけですが、あまり硬く考えずに医師会の活動が平穏に行われていくように微力を尽くしたいと考えています。どうぞよろしくお願ひいたします。

顧問就任の挨拶



真鍋 勉

此の度、顧問に就任しました真鍋です。西多摩医師会100年の歴史の中で、新定款施行細則の文言の中に、初めて顧問という名称が表記され、その細則に基づき推挙されましたことは、誠に名誉に存ずると共に何か面映い思いも致しております。

昭和63年に理事に就任してから今年5月まで30年余の長きに亘り西多摩医師会に携わって参りました。この間実に多くの優れた諸先輩にご指導を頂き、そのおかげでこれまでやつてこられたという事は言うまでもありません。この場をお借りして深謝申し上げると共にこれらの経験を生かし、西多摩医師会の発展のため少しでもお役に立ちたいと思っております。



感染症だより

〈全数報告〉

第 24 週 (6.9-6.15) から第 28 週 (7.7-7.13) の間に診断された感染症について、管内医療機関より以下の報告がありました。

(二類感染症) 結核 7 件 (肺結核 3 件、頸部リンパ節結核 1 件、無症状病原体保有者 3 件)
年齢は 20 代、40 代 各 1 件、50 代 2 件、60 代、70 代、90 代 各 1 件。性別は 男性 4 件、女性 3 件)

(五類感染症) 梅毒 2 件 (30 代男性、20 代女性)、侵襲性肺炎球菌感染症 1 件 (60 代女性)

〈管内の定点からの報告〉

	24 週	25 週	26 週	27 週	28 週
	6.9 ~ 6.15	6.16 ~ 6.22	6.23 ~ 6.29	6.30 ~ 7.6	7.7 ~ 7.13
RS ウイルス感染症					
インフルエンザ	2	2			
咽頭結膜熱	5	6	11	12	3
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12	7	10	9	15
感染性胃腸炎	36	21	23	23	30
水痘	2	12	7	4	2
手足口病	1	2	3	2	8
伝染性紅斑	4	4	3	3	3
突発性発しん	3		1	3	3
百日咳			1	1	
ヘルパンギーナ	7	7	27	45	54
流行性耳下腺炎	1	3	3	9	5
不明発疹症				1	
MCLS					
急性出血性結膜炎					
流行性角結膜炎				1	1
合 計	73	64	89	113	124

基幹定点報告対象疾病

(細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎 (オウム病を除く)、感染性胃腸炎 (ロタウイルス))
報告なし

〈コメント〉

① ヘルパンギーナが都内で警報基準を超え、大きな流行となっています (警報システムについて)。

感染症の警報・注意報システムは、感染症の流行を早期に把握し原因究明や拡大阻止対策などを講ずるための注意喚起として、国立感染症研究所が作成した仕組みです。過去 5 年間の流行状況の中で一連の警報発生の起こる確率が 1% 程度になるように警報基準を定めています。ヘルパンギーナの場合は、定点あたり患者報告数が 6.0 を流行開始の基準値とし、前の週に警報が発生していた場合は継続基準値である 2.0 以上の場合は警報が発生します。第 28 週は東京都全体の定点あたりの患者報告数 7.13、西多摩保健所管内では 6.75 でした。都全体としての警報基準は、基準値を超えた保健所の管内人口の合計が、東京都全体の人口の 30% を超えた場合と定めており、都内の広い範囲で流行していることをあらわしています。第 28 週には、保健所別の患者報告数が警報基準値を超えたのは 31 保健所中 14 保健所で、管内人口の合計は、東京都全体の 60% でした。

ちなみに、インフルエンザは警報開始基準値 30、継続基準値 10、感染性胃腸炎はそれぞれ 20、12 です。

② 平成 26 年 10 月から水痘ワクチンと成人用肺炎球菌ワクチンが定期接種となります。

水痘は小児を中心に毎年約 100 万人が発症し、約 20 人が死亡していると推定されています。定期接種の対象は 1 ~ 2 歳で、3 か月以上の間隔をおいて 2 回接種します。来年 3 月までは経過措置として 3 ~ 4 歳に 1 回接種します。

肺炎球菌は高齢者の細菌性肺炎の原因の多くを占めています。成人用肺炎球菌ワクチンは 65 歳の者と 60 歳以上 65 歳未満で心臓、腎臓もしくは呼吸器の機能又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害の者を対象として 1 回注射します (経過措置あり)。

予防接種は感染症を予防するために効果的ですが、特に乳幼児期には定期接種が集中しており、接種間隔や接種回数など複雑で、誤接種が生じる可能性があります。平成 25 年度に市区町村で行われた定期予防接種で、全国で 4,596 件のミスが報告されています。西多摩保健所管内でも、ワクチンの有効期限切れなど 13 件の報告がありました。接種前の確認をよろしくお願ひいたします。

感染症だより

〈全数報告〉

第29週（7.14-7.20）から第32週（8.4-8.10）の間に診断された感染症について、管内医療機関より以下の報告がありました。

(二類感染症) 結核 9件（肺結核1件、肺結核及び結核性胸膜炎1件、肺結核及び粟粒結核1件、粟粒結核及び結核性胸膜炎及び結核性腹膜炎1件、頸部リンパ節結核1件、腸間膜リンパ節結核1件、無症状病原体保有者3件。年齢は40代1件、50代2件、60代3件、80代3件。性別は男性3件、女性6件）

(三類感染症) 腸管出血性大腸菌感染症 2件（40代女性、20代男性）

(五類感染症) アメーバ赤痢 1件（60代男性）、クロイツフェルト・ヤコブ病 1件（50代女性）、先天性免疫不全症候群 1件（40代男性）

〈管内の定点からの報告〉

	29週 7.14～7.20	30週 7.21～7.27	31週 7.28～8.3	32週 8.4～8.10
RSウイルス感染症				
インフルエンザ				
咽頭結膜熱	10	2		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10	4	2	
感染性胃腸炎	22	22	14	13
水痘	2	2	3	
手足口病	8	2	8	3
伝染性紅斑	2			1
突発性発しん	5	2	8	4
百日咳				
ヘルパンギーナ	48	30	22	11
流行性耳下腺炎	4	10	4	1
不明発疹症				1
MCLS				
急性出血性結膜炎				
流行性角結膜炎			1	
合計	111	74	62	34

基幹定点報告対象疾病

（細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎（オウム病を除く）、感染性胃腸炎（ロタウイルス）、マイコプラズマ肺炎2件（5～9歳男性2件）

〈コメント〉

① 腸管出血性大腸菌感染症が増加しています。

今回は西多摩保健所管内で腸管出血性大腸菌感染症の報告が2件あり、平成26年の32週までの累計報告数が5件（内2件は無症候病原体保有者）となりました。血清群はいずれもO157で、ベロ毒素の產生はVT1・VT2が4件、VT2が1件です。埼玉県の保育所における給食を原因とした食中毒患者も1件含まれています。なお、この5年間では35件で、年平均7件程度の発生状況です。

平成26年の32週までの累計は、東京都では212件、全国では2,109件で、14～16週に馬刺し（生食用馬肉）による食中毒があり一時的に増加し、その後も夏季にかけて増加し続けている状況です。7月末の静岡県の花火大会での「冷やしキュウリ」喫食による入院者115人を含む患者508人（8月20日現在の総人数）という食中毒も発生しています。

腸管出血性大腸菌感染症が多発する夏季は、食肉の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などにより、食中毒の予防を徹底することが必要です。

② 西アフリカエボラ出血熱が流行しています。

エボラ出血熱は感染症法では一類感染症に定められています。主にアフリカ中央部で発生していましたが、本年3月にはギニアで集団発生が報告され、隣国のリベリア、シエラレオネなどの西アフリカ地域で流行が広がっています。主として患者の体液等（血、分泌物吐・排泄）に触れることにより感染するので、一般の日本人旅行者の感染リスクは非常に低いと考えられますが、感染流行地域への渡航歴があり38℃以上の発熱に加え、激しい頭痛や腹痛、原因不明の出血など疑わしい症状がある場合などは検査が必要になりますので、保健所にご連絡ください。

専門医に学ぶ 第108回

問題

【症例】57歳 男性

【主訴】両側臀部～足趾のしびれ、歩行障害、膀胱直腸障害

【家族歴・既往歴】48歳 高血压

【現病歴】10年前に両側足底のしびれ出現。2011年夏ごろよりしびれが臀部まで広がる。2012年3月ごろから歩行障害が出現し、たまに失禁するようになった。上肢は無症状である。2012年5月30日 紹介にて初診。

【現症】平地歩行は杖なしで可能であるが、階段は手すりが必要。知覚は両側とも Th11 から末梢で鈍麻。筋力は両側の股関節屈曲が 5-/5、外転が 4/5、前脛骨筋 4/5 以外は正常。下肢腱反射は両側とも著明に亢進。左右ともバビンスキー反射陽性。MRI を施行した（図1）



図1. MRI 矢状断

(問題1) 病変がある部位はどこでしょう？

1. 脳
2. 頸髄
3. 胸髄
4. 腰髄
5. 馬尾

(問題2) MRI から考えられる疾患は

1. 椎間板ヘルニア
2. 後縦靭帯骨化症
3. 黄色靭帯骨化症
4. 脊髄動静脈奇型

解答と解説

青梅市立総合病院 整形外科部長 岡本 昭彦

(解答) 問題1:3 、問題2:3

(解説)

症状が両側性の知覚・運動麻痺であり、錐体路症状（腱反射亢進、バビンスキー反射陽性）を伴っていることから、病変部は胸髄部にあることが考えられます。知覚低下が第11胸髄節以下に起きていることから、その辺りを検索する必要があります。胸椎と胸髄の高さには1-2個分

のずれがあり、胸椎の方がやや頭側に位置します。つまり、第11胸椎は、第9ないし第10胸椎の後ろに位置します。

MRI(図1)を見ますと、Th1/2、2/3およびTh10/11レベルで脊髄が後方から圧迫されているのがわかります。いずれも圧迫物はT2で低輝度であり、石灰化や骨化によるものが考えられます。

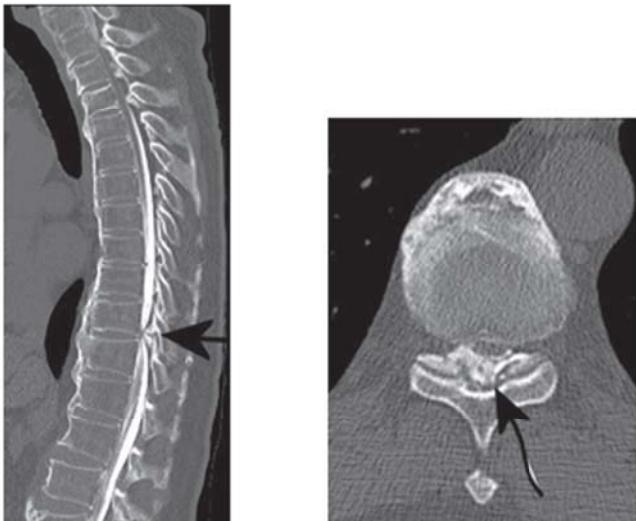


図2. ミエロ CT

入院して脊髄造影を行いましたが、腰椎から注入した造影剤はTh10/11で通過が悪く、直後に施行したCT(図2)では、Th10/11レベルに嘴状の黄色靭帯骨化(OYL)があるのが解ります。黄色靭帯骨化症は原因不明の疾患です。男性にやや多く、胸椎に好発します。後縦靭帯骨化症(OPLL)を伴っている時と伴っていない時があります。手術は椎弓切除を行い、骨化を薄くしたのち摘出するのが基本ですが、麻痺が悪化する可能性がある厄介な疾患です。

この症例の場合、症状はTh10/11部のOYLが原因と判断し、Th10-12の椎弓切除とペディカルスクリューによる固定を行いました(図3)。手術によってしづれは改善しませんでしたが、歩行障害と膀胱直腸障害は改善し、退院しました。

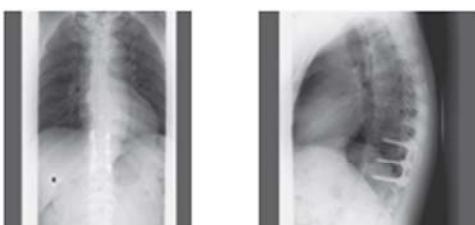


図3. 術後X線像

2013年2月から再び歩行障害が悪化して、杖なしでは歩けなくなりました。脊髄造影を行ったところ、今度はTh2/3レベルで完全ブロックとなりました。このため、Th1-4の椎弓切除と骨化摘出を行いました。

再手術後に神経症状はかなり改善し、杖なしで安定して歩行ができ、しづれもほとんどなくなっています。

広報だより



残 心

青梅市 ゆだクリニック 湯田 淳

大学時代、私は剣道部に所属していましたが試合で「面」、「籠手」、「胴」といった技を繰り出し、有効に打突し、「決まった」と思っても審判の旗が上がらず、ふと氣を抜いた瞬間に反撃をくらい、負けてしまうことがありました。当然、納得いかず、「審判は相手の味方じゃないか」と変な勘織りをすることもありました。しかし、われわれを指導してくださった師範には試合後、「有効な打突だが、残心がないから審判にとてもらえないかった」と必ず言われました。この時「残心」の意味があまり理解できずにいましたが練習と経験を積み重ねていくうちに少しづつ解ってきました。

「残心」とは日本の武道や芸道（茶道、舞踊）において用いられる言葉で「残身」、「残芯」と書くこともあるようです。武道における残心とは、技を決めた後も心身ともに油断せず、相手の反撃を防ぎ、完全なる勝利へと導くことです。剣道の試合で有効打突が決まった（1本取った）と思い、大喜びをするような態度（例えばガッツポーズ）をとれば審判に「残心がない」と判断され、勝利を取り消されることがあります。これは「残心」を重視する剣道のルールです。

芸道、例えば茶道における「残心」とは名残惜しさの表現、「余情残心」と言われています。私は茶道をやったことがありませんのでこの「余情残心」について調べてみると主人（主客）が客に茶をたてた後、客が茶室を退出し、帰って行く姿を見送り、その後、主客は一人茶室に戻り、茶をたて、客との一期一会を囁みしめる作法のことだそうです。

武道と芸道における「残心」にはニュアンスの違いはあるものの、「一つの動作を終えてもすぐに気を抜くことなく、かつ事が成った時の余韻を楽しむ」という意味では相通するものがあるのではないかでしょうか。

私は生業としている「医道」にも武道や芸道と同じように「残心」があると思います。これまでの経験と知識をもとに全力を尽くし、治療にあたり、一段落しても油断しないという姿勢。また、患者様との一期一会、病気を治癒した時の喜びを囁みしめる余韻。私はこの「医道」における「残心」をこれからも大切にしていきたいと思います。

連載企画



北格阿利納滞在記 その1

青梅市 土田医院 土田 大介

格アリナと書いてカロライナと読みます。10年ほど前になりますが米国ノースカロライナ州に2年間ほど住んでいたので今更ながらそのときの生活を振り返って何回か連載致します。

ノースカロライナ州は米国東海岸にある州で、人口は1,000万弱、面積は約14万km²（北海道・

九州・四国を合わせたくらい)、東は大西洋に面し西はア巴拉チア山脈を形成する東西に長い州です(東西が901km、南北241km)。従って気候は地域によって異なりますが、自分が住んでいたダーラムという都市は日本にも似て四季がはっきりしており比較的過ごしやすいところでした。

現地に着いて3日ほどホテルに滞在し、研究室の日本人のボスに手伝ってもらい(早く仕事をしろという理由もあったようです)、まずは住む家と車の契約を行いました。家はアパートを選択、日本でいう団地のようなものです。3階建ての集合住宅が広い敷地内に立ち並んでいるのですが、驚いたのは敷地内にジムやプール、テニスコート、ビーチバレーコートなどが普通にあるということでした。当り前すぎるのかそれぞれ込み合うこともなく、それらを利用するのにお金を払わなくてはいけない日本との運動環境の違いを痛感しました(しかし太った人は多いです)。1LDKで風呂・トイレ付き、台所もオープン・冷蔵庫は備え付けで月500ドル程で借りられました。住人にはアジア系や黒人も多く中級レベルのアパートなのでしょうが、妻との2人暮らしには十分なものでした。

車に関しては、アメリカは中古車の売買が日本より一般的で、2年間という滞在期間ということからも中古車を選択しました。TOYOTAの看板のある販売店で当たり前のように置いてある日産のセントラを購入、3年で走行距離5万km近く走っている車で1000ドルほどでしたが大した事故もなく乗り過ごしました。ただ最後に大きな落とし穴が待っていたのですが、そのことについては後日述べることに致します。

家と車が揃えば、次は銀行での口座開設および電話回線の申し込みです。これらが終わると生活レベルは更に上がります。今は分かりませんが公共料金の支払いはチェック(小切手)の郵送が主体であり、買い物はデビットカードで多くの場合済ませられます。デビットカードがあれば英語を話せなくても日常の買い物が出来て、慣れない小銭を扱わなくて済むので何かと重宝しましたが、日本ではまだそれほど普及していないのはお国柄の違いなのでしょう。本当かどうか分かりませんがアメリカでは強盗に襲われたときに備えて財布に20ドル札が1枚入っていれば大丈夫だと言われましたが、日本では治安と関係なく財布に1万円札が入っていないと出かける際にはちょっと心配です。



電気やケーブルテレビなどの契約はネットや郵送で可能でしたが電話回線の申し込みは直接窓口で行う必要がありました。南部なまりの英語と拙い日本英語でやりとりすること数十分、四苦八苦して申し込みをしてから10日以上経ちようやく電話回線が繋がりました。電話回線がないとメールも出来ないため、電話が繋がるまで日本にいる家族と連絡をとれず行方不明と思われて心配をかけてしまいました。

渡米して2週間くらいでしょうか、まだ生活環境が十分に整っていない頃に超大型ハリケーン「イザベル」がノースカロライナ州を直撃します。自宅の周囲はさほど強風を感じなかったものの、恐らく森の中を通る送電線が被害を受けたのか2日ほど停電しました。何しろオール電化の家なので電気がないと調理が出来ず、水は出てもお湯

になりません。そのようなことも想定してカセットコンロを用意していたのですが船便で日本から発送していたのでまだ到着しておらず、その日は大した食事もせずに暗くなったら寝るしかありませんでした。情報量が少ない中でのハリケーン体験で、この程度で停電するのでは今後のアメリカでの生活が思いやられると感じていましたが、後に日本列島をすっぽり覆いそなくらいの超大型のハリケーンだったと知り納得しました（写真はイザベルの衛星画像 Credit:Jacques Descloitres, MODIS Rapid Response Team, NASA/GSFC）。実際、その後は1回くらいしか停電しなかったと記憶しています。帰国した後に更に大きなハリケーン「カトリーナ」が米国南東部を直撃しましたが、こちらはご存知の方もおられるでしょう。ハリケーンの名前はアルファベット順に予め決められたリストの中から順番につけられるのですが、引退制度があり記録的なハリケーンの名前は以後使われなくなります。イザベルという名前もカトリーナと同様今回お役御免となる程の大きなハリケーンだったのです。

まさに嵐とともに始まった私の米国生活ですが、その後のことはまた後日記していくたいと思います。



日本医師会認定の東京都医師会・西多摩医師会産業医研修会



平成26年8月2日の土曜日、日本医師会認定の東京都医師会・西多摩医師会産業医研修会が青梅市立総合病院で開催されました。

午後0時55分。玉木会長の挨拶で始まり、産業医制度が始まった頃の話をされました。午後1時から6時20分まで5講義が組まれ、基礎研修の受講者には後期研修2単位と実地研修3単位が与えられ、更新研修の受講者には更新研修1単位、専門研修1単位と実地研修3単位が与えられます。

1時限目；“個人情報保護法と健康診断情報の扱い” 日立製作所ひたちなか総合病院、水戸健康保険センター 中谷敦先生の講義は、個人の情報は個人の持ち物であり①他人に覗き見されたり、②自分の意思とは別に取り扱われたりすることがないようしなければならない。会社が行う定期健康診断の個人情報は、事業者が情報の収集者となるため、情報の取り扱い方についての問題を整理しておく必要があり、また健康情報の利用目的を明確にすることが大事である。健康診断では、事業者に対して当該労働者の「就労区分（通勤労働可・就業制限・要休業）」と有所見者に対する「就業制限・適正配置」について産業医の意見をのべて健康診断実施の措置が達成する。「過労死」につながる作業関連疾患の予防と対策では保健指導の義務。仕事が原因で起きる労災自殺ではメンタルヘルスが必要である。健康情報の取り扱いに関して、今まで経験した事例を挿みながら、OECDの8原則（収拾制限、データーの質、明確化、利用制限、安全保護、公開、個人参加責任の原則）を熱心に講義された。

2時限目；“災害時の産業医対応” 講師は同じく 中谷敦先生。約1万人が働いている日立製作所（敷地2km²）での震災の体験を話されました。特殊な薬品を使用しているため復興時の怪我や病気には産業医の重要性を話されました。災害時のマニアル JPTEC、JATEC 工場BCPマニアルが役立ったそうです。

3時限目からは3グループに分かれて実地研修が始まりました。

3時限目；“Push-pull型換気装置などの正しい管理法”（実習） 興研労働衛生コンサルタント所長 岩崎毅。 作業環境内で発散する有害なガス、蒸気を噴出し側フードと吸い込み側フードを用いて排出する方法を実習しました。

4時限目；“メンタル不調者復帰時の問題点” ニコン人事部健康安全推進課長 對木博一。休業中の従業員が職場復帰を行う場合、主治医による就業可能の診断書が提出されるが、診断書には身体の病状の情報で職場環境や作業内容の具体的な情報がないため、復職の判断は、産業医、衛生管理者、職場管理者と人事部門で総合的に判断をする。その後、支援体制、業務内容、緊急時対応、就業制限の確認して復職を決定する。更に復職後には疾病管理、業務確認、日常観察などフォローアップが重要。復職には問題も多く時間がかかる。

5時限目；“職場巡視に役立つ室内環境測定” 十文字学園女子大学人間生活部教授 田中茂。温熱環境、換気環境、採光・照明、騒音をそれぞれ測定器で測る実習をした。

(馬場真澄)



「高血圧ガイドライン 2014 を活かす」

東京大学医学部附属病院 検査部講師 下澤 達雄

JSH2014 の活かし方

本年4月に発行されたJSH2014であるが、社会問題ともなった人間ドック学会の研究結果の報道とJSH2014との齟齬については正しい理解をする必要がある。人間ドック学会の研究は縦断研究から血圧値の基準範囲を示したものであり、研究手法、結果とも間違ってはいないであろう。いかなるバイオマーカーも基準範囲を設定することは重要であり、その設定は健常と思われる対象のデータを縦断的にあつめ、平均と標準偏差から基準範囲を求める。ここで注意しなければならないのは基準範囲は病気を判断する臨床判断値と一致しないことが多いことである。たとえばPaCO₂ 40Torrは基準範囲内であるが、代謝性アシドーシスの患者においてはPaCO₂が40であることは呼吸性の代償が働いていないことを示すため、何らかの異常があることを示す。血圧値の臨床判断値は心血管イベント、腎機能低下のリスクが高まる血圧値をもって決められたもので、高血圧学会をはじめとして各種団体が縦断研究をもとに設定した。ガイドラインにはこのような学問的背景をもとに数多くの項目が書かれている。その多くは臨床医であれば十分理解できるものであるが、患者教育にも用いる降圧の重要性、生活習慣の改善、降圧薬の差異などはわかりやすく、医学用語をなるべく使わずに平易な言葉で患者に説明する必要がある。

今回の講演ではJSH2014と2009を比較し変更点を1. 血圧測定と評価、2. 降圧目標、3. 降圧薬の使い方に絞って解説し、さらに普段あまり目を通さない部分を紹介し、ガイドライン理解の助けとなるようにした。

西多摩地域糖尿病医療連携検討会からの今月のメッセージ

西多摩地域糖尿病医療連携検討会 座長 野本 正嗣



当検討会の主催する医師・コメディカル・市民向けの糖尿病講演会・セミナーについて確定したものをご連絡いたします。

(1) 「介護関連職種を対象とした糖尿病セミナー」

日時：平成 26 年 10 月 31 日（金）19 時 30 分～21 時 30 分

場所：青梅市立総合病院 南棟 3 階講堂

※申込み用紙を 9 月上旬に配布いたしますので、西多摩医師会までお申込み下さい。

(2) 「症例から学ぶ糖尿病セミナー」

日時：平成 26 年 11 月 6 日（木）19 時 30 分～21 時 30 分

場所：公立福生病院 多目的ホール

※10 月上旬にご案内のチラシを配布いたします。奮ってご参加下さい。

(3) 「糖尿病と糖尿病予備群のための講演会 in 青梅・奥多摩」

日時：平成 26 年 11 月 8 日（土）14 時～17 時

場所：西多摩医師会館

※貴院に通院中の糖尿病患者様及び糖尿病予備群の方へのご案内・参加勧奨をお願いいたします。（青梅・奥多摩地区以外の医療機関の方でも結構です）10 月上旬にご案内のチラシを配布いたしますので、待合室等へのご掲示をお願いいたします。

第 23 回西多摩医師会互助会『納涼の夕べ』



平成 26 年度西多摩医師会
互助会「納涼の夕べ」が、7
月 2 日（水）に昭和の森フォ
レストイン昭和館で開催され
ました。

平日のお忙しい所また蒸し暑い中 65 名の
多数の先生方に参加していただきました。

開会の挨拶は、今期より西多摩新医師会長
に就任されました玉木一弘先生より新医師会
長としての意気込み又介護・福祉・医療連携
等更に密接な交流をお願いしたいとの挨拶で
しました。

乾杯の音頭は、公立阿伎留医療センター院
長荒川泰行先生にお願いし、しばし親睦を深
める歓談となりました。

今後の西多摩医師会新理事 11 名の自己紹

介がありました。

次の病院会員紹介では、青梅市立総合病院、
公立阿伎留医療センター、公立福生病院、目
白第 病院、熊川病院、日の出ヶ丘病院の順
番で院長（代理副院長）及び勤務医の先生方
に自己紹介して頂きました。



今年も研修医等の若い先生方の参加が多く
去年と同様フレッシュな雰囲気でした。

その後余興になりパーカッショングループ



“TuK PaK” の 3 人によるパーカッショニン・
マリンバ・ヴィブラフォン等のすばらしい演
奏に皆様熱心に聞き入ってました。

会も終盤となり恒例のくじ引きが行われま
した。景品は、今人気の商品、ダイソン扇風機・
シャープお茶プレッソ・タイガーグリル鍋等
14 品が会長より当選者に手渡されました。

最後に閉会の挨拶を鹿児島武志副会長より
頂き無事お開きとなりました。

今回の企画・受け付け等で御協力頂きました医師会事務局の方々に感謝致します。

(文責：福祉担当：朱膳寺洋文)

理事会報告

★ *Information*

6月定例理事会

平成26年6月10日(火)

西多摩医師会館

[出席者：横田・鹿児島・野本・蓼沼・江本・宮城・近藤・小林・西成田・朱膳寺・奥村・大堀・中野]

【1】報告事項

(1) 各部報告

・ 経理部 6月5日経理部会及び監査会を開催

(2) 地区会報告（各地区理事）

青梅市 5月30日理事会を開催

福生市

羽村市

あきる野市

瑞穂町

日の出町

(3) その他報告

平成25年度監査報告について

6月5日に実施した監査会及び25年度の事業等に係る監事監査について、監事から説明があった。

【2】報告承認事項

(1) 入・退会会員、会員異動について

— 承 認 —

資料により標記についての紹介があり、正会員1名、準会員2名の入会が承認された。

【3】協議事項

- (1) 「平成 25 年度事業報告書」について（継続） — 可決承認 —
各部理事が前回資料を確認し、一部追加・修正した資料が示され、可決承認された。
- (2) 「平成 25 年度決算報告書」について（継続）・・・（前回配布資料） — 可決承認 —
前回持ち帰った資料の内容について意見が求められた。
特に修正の必要は認められず、標記決算書は可決承認された。
- (3) 「平成 26 年度収支予算書」の修正（案）について（継続） — 可決承認 —
前回理事会で協議後、総務・経理担当理事により協議・検討が行われた。
一部修正された標記資料が提出された。協議・検討内容について説明の説明があり、可決承認された。
- (4) 理事・監事・医道審議会委員の候補者選出について — 可決承認 —
標記委員の改選にあたり、推薦・立候補による候補者一覧表が示された。
会員資格等を確認の後、理事・監事・医道審議会委員候補者全員の選出が可決承認された。
- (5) 平成 26 年度定時社員総会の開催通知および送付資料について — 可決承認 —
6月 27 日に予定されている平成 26 年度定時社員総会の開催通知及び送付資料の案が示され、可決承認された。
- (6) 太陽光発電設備の設置について — 継続 —
標記の設置請負業者（カインズホーム）より提示された簡易見積書（提案書）について説明があり、金額・費用対効果・保証・導入イメージ等につき意見交換・協議が行われた。
太陽光発電設備の設置については、可決されたが、次回理事会にて契約書（案）を確認し、最終決定することにした。

【4】その他

- (1) 7月 4 日に予定されている青梅市立総合病院医師会合同症例カンファレンスについて

6月定例理事会

平成26年6月24日(火)

西多摩医師会館

[出席者：横田・鹿児島・野本・蓼沼・江本・宮城・近藤・岩尾・小林・西成田・朱膳寺・安部・奥村・大堀・中野]

【1】報告事項

- (1) 都医地区医師会長連絡協議会報告

1. 都医からの伝達事項

1. 日医医賠責保険制度運営に関する変更（連絡および依頼）について

①改定内容

- (1) 「廃業」後の保険適用の追加

A 会員が閉院や退職等により、将来に亘り日常的な医療を行わず、かつ、

A 会員から B 会員に「会員区分変更」を行った場合は、廃業後 10 年以内に、廃業前の医療行為に起因した損害賠償の請求がなされたケースに対しても、本保険が適用されることになります。

(2) 保険期間中の支払限度額の増額

現行の 1 事故 1 億円／保険期間中 1 億円を、1 事故 1 億円／保険期間中 3 億円に改定いたします。

②改定時期

平成 26 年 7 月 1 日から実施

2. 東京都における胃がん対策充実に向けた提案—胃がんリスク（ABC）検診に向けて—について

3. 中東呼吸器症候群（MERS）に関する対応について

下記の要件に該当する症例は各医療機関の所在地を管轄する保健所へ迅速に情報提供してください

(1) 以下の要件を全て満たす場合

- ア 発症前 14 日以内にアラビア半島またはその周辺諸国に渡航または居住していた者
- イ 38 度以上の発熱及び咳を伴う急性呼吸器症状を呈する者
- ウ 臨床的または放射線学的に実質性肺病変（例：肺炎または ARDS）が疑われる者

(2) 以下の要件を全て満たす場合

- ア 発熱を伴う急性呼吸器症状（軽症の場合を含む。）を呈する者
- イ 発症前 14 日以内にアラビア半島又はその周辺諸国において、医療機関を受診又は訪問した者、MERS であることが確定した者との接触歴がある者又はラクダとの濃厚接触歴（未殺菌乳の喫食等）がある者※ただし、他の感染症によること又はほかの病因が明らかである場合を除く。

（注）対象地域については、以下の各国を目安としてください。

サウジアラビア、カタール、アラブ首長国連邦（UAE）、イエメン、オマーン、クエート、ヨルダン等

4. 「東京都における予防接種の不適切接種事例のまとめ」

（平成 25 年 1 月～平成 26 年 3 月報告分）について

5. 地域における虐待対応力向上研修事業の実施に当たっての協力依頼について

6. 生活保護法指定医療機関に対する一般指導の実施について

7. 地区医師会における「精神保健担当理事」または「精神保健担当医師」（可能であれば精神科医師）の設置について

8. 精神科医療地域連携事業の実施について

9. 東京 JMAT 研修会の開催について
 10. 東京都医師会生涯教育委員会「大学医学部・医科大学における地域医療実習・研修」に関するアンケートについて
 11. 第 16 回「日本医師会 指導医のための教育ワークショップ」(東京都医師会主催)の開催について
 12. 臨床研修を修了した者であることの確認等について
2. 地区医師会からの報告
1. 中央ブロック (当番: 下谷医師会)
 2. 城東ブロック (当番: 荒川区医師会)
①江戸川区医師会医療検査センター年報 (平成 24 年度活動報告) の発行について
(江戸川区医師会)
 3. 城西ブロック (当番: 玉川医師会)
 4. 城南ブロック (当番: 品川区医師会)
 5. 城北ブロック (当番: 板橋区医師会)
 6. 多摩ブロック (当番: 調布市医師会)
 7. 大学ブロック (当番: 帝京大学医師会)
3. 出席者による意見交換
4. その他
1. レセプト電算化猶予中の保険医療機関に対する移行確認調査の結果を踏まえた対応について

行事予定

1. 第 282 回 (定時) 代議員会 (平成 25 年度決算等)
日時: 平成 26 年 6 月 26 日 (木) 午後 2 時
場所: TKP ガーデンシティ竹橋 (住友商事竹橋ビル 11 階)
2. 7 月の地区医師会長連絡協議会
日時: 平成 26 年 7 月 18 日 (金) 午後 2 時
場所: 東京都医師会 (住友商事竹橋ビル 13 階)
3. 8 月の地区医師会長連絡協議会
休会
4. 9 月の地区医師会長連絡協議会
日時: 平成 26 年 9 月 19 日 (金) 午後 2 時
場所: 東京都医師会 (住友商事竹橋ビル 13 階)

(2) 各部報告

・学術部 6月19日に開催された多摩医学会役員会について

(3) 地区会報告（各地区理事）

青梅市 6月20日総会開催

福生市

羽村市

あきる野市 6月16日総会開催

阿伎留医療センターとの地域医療連携に係る連絡会を開催

瑞穂町 5月19日より特定健診を開始

日の出町

(4) その他報告

(1) 東京都医師会第10回救急委員会（6月16日 小山 英樹 委員）

議題 1. 会長諮問事項について

1. 災害時の医療に関する研修会の開催について
2. 休日・全夜間診療事業の見直しに係る検証について
3. 高齢者救急の医療体制について
2. 東京JMAT研修会について
3. 平成26年度東京都・杉並区合同総合防災訓練について
4. 災害薬事コーディネーターの設置についての進捗状況について
5. 東京都農薬危害防止運動について
6. 東京都の自殺未遂者対応地域連携支援事業について

(2) 東京都医師会第8回地域福祉委員会（6月19日 進藤 晃 委員）

1. 勉強会 講演「地域包括ケアとまちづくり」

（独立行政法人 労働政策研究・研修機構 研究員 堀田 聰子）

2. 報告事項

- (1) 平成26年度介護報酬改定後の給付費の請求について
- (2) 生活保護法の一部改正に伴う指定介護機関の指定について
- (3) 認知症普及啓発用パンフレット「知って安心 認知症～認知症の人にやさしいまち東京を目指して～」の送付について
- (4) 接触・嚥下機能支援推進事業における評価医養成研修及びリハビリチーム養成研修修了者名簿（平成25年度末）の送付について
- (5) 東京都医療・介護連携型サービス付き高齢者向け住宅モデル事業 平成26年度第2回事業者公募の実施について
- (6) 一般住宅を併設したサービス付き高齢者向け住宅整備事業の周知について

3. 議事

- (1) 平成26年度 主治医研修事業講師養成講習会について

日時：平成26年8月1日（金）14時～17時

場所：東京都医師会

- (2) 東京都在宅療養研修事業「在宅医リーダー研修（都医版）」について
 (3) 今期（H25・26）の諮問について

「医療と介護の連携による地域包括ケア構築のために」

- ・乗り越えなくてはならない壁と解決方法
- ・在宅医療に必要な基盤整備
- ・病院救急車を利用した高齢者救急搬送支援体制の構築について

※地域包括ケアは、医師会が主導して市町村長に働きかける必要がある

- (3) 100周年記念誌の進捗状況について鹿児島副会長より報告があった。

【2】報告承認事項

- (1) 入・退会会員、会員異動について

— 承認 —

資料により標記について紹介され、正会員1名・準会員1人の入会が承認された。

【3】協議事項

- (1) 太陽光発電設備の設置について（継続）

— 可決承認 —

契約書（案）が資料として示され、説明の後、前回に引き続き設置時期・効果等について再度協議の後、標記設備の設置及び契約について可決承認された。

- (2) 市民公開講座における後援名義使用のご依頼

— 可決承認 —

標記の依頼について資料により説明され、後援名義使用について可決承認された。

- (3) 地区医師会における「精神保健担当理事」または「精神保健担当医師」

（可能であれば精神科医師）の設置について（依頼）

— 継続協議 —

標記の依頼について資料により説明された後、意見交換・協議されたが結論に至らなかつた。「担当理事の新設は無理であり、登録する担当者は地域医療担当理事とするが、期日までに就任いただける精神科医師が選任できる場合は、その先生の設置を報告する」との意見を申し送りし、新執行部（理事会）にて再協議していただくことにした。

7月定例理事会

平成26年7月8日(火)

西多摩医師会館

[出席者：玉木・鹿児島・江本・奥村・小林・朱膳寺・土田・馬場・古川・松山・宮城・中野・横田]

【1】報告事項

- (1) 各部報告

- ・総務部 7月2日に開催された「納涼の夕べ」の状況について
- ・学校医部 平成27年1月22日に西多摩学校保健連絡協議会を開催予定

- (2) 地区会報告（各地区理事）

青梅市

福生市 7月29日に納涼会を開催予定

7月5日 福生市学校保健会総会・講演会を開催

羽村市 7月5日 羽村市学校保健会総会及び設立20周年記念式典・講演会を開催
あきる野市 7月9日 あきる野市三師会を開催予定
瑞穂町
日の出町

- (3) 東京都医師会第9回産業保健委員会（6月26日 蓼沼 翼 委員）
標記委員会について委員より提出された資料により内容等が確認された。

【2】報告承認事項

- (1) 入退会会員、会員異動について — 承認 —
資料により標記について紹介され、準会員4名の入会が承認された。
- (2) 西多摩三師会総会及び役員人事について — 承認 —
6月14日に開催された西多摩三師会総会において役員改選があり、医師会からの役員について、本理事会資料4の下段の通りとなつた旨報告され承認された。

【3】協議事項

- (1) 新たな西多摩医師会活動における当面の課題
資料に沿って今後の医師会活動における課題や方向性、会長の方針等が詳細に述べられた。(議決に該当する事項は無)
- (2) 西多摩医師会職務分掌・地区・委員会等人事について — 可決承認 —
資料により各部会担当理事及び副担当が示され可決承認された。
部員については各担当理事が選定の上次回の理事会で協議することとした。災害医療対策委員会及び脳卒中・糖尿病医療連携検討会については現状の委員とすることとされ、その他の委員会等については順次検討することとされた。
※追加事項として、定款施行細則第44条に基づき当会に顧問を置くこと、その候補として真鍋勉先生が推薦され異議なく可決承認された。
- (3) 多摩地区医師会懇話会（11月15日）開催運営チームの立ち上げ等について — 可決承認 —
昨年度及び当会が当番となった平成12年度の次第等が紹介され、懇話会は役員全員で対応することとなるが、素案作成等事前準備等のため正副会长長及び総務担当理事を中心 チームを立ち上げることが提案され可決承認された。
- (4) 地区医師会における「精神保健担当理事」または「精神保健担当医師」（可能であれば精神科医師）の設置について（依頼）・・・〈継続協議事項〉 — 可決承認 —
標記依頼事項に対し中野和広先生を選任することが提案され本人承諾の上可決承認された。
- (5) 東京都大気汚染医療費助成制度を継続させるためのお願い — 継続審議 —

- (6) 「東京都大気汚染医療費助成制度」存続へのご協力のお願い — 継続審議 —
上記事案については、東京都医師会の対応等情報が不足しているため、7月18日の都地区医師会長連絡協議会にて情報収集の上再協議することとした。
- (7) 主治医研修事業の実施及び講師養成講習会の開催について — 可決承認 —
標記の件に係る東京都医師会からの案内が資料として示され、会長より講習会へ出席する旨が申し出られ、秋に研修会を実施することが提案され可決承認された。
- (8) 三歳児健診の推進について — 可決承認 —
資料により都医からの通知内容が紹介され、関係する会員（内科・小児科標榜）に通知することが提案され可決された。また標記検診に係わっている先生を地区長より情報を得ることが指示された。
- (9) 7月22日移動理事会について — 可決承認 —
7月22日の理事会を移動理事会とすること及び理事会後に新旧役員の顔合わせ懇親会を行なう事が提案され可決承認された。開催場所等は総務担当理事に一任された。

【4】その他

- (1) 「市町村国保主務担当者との懇談会」の開催日について
標記につき幹事当番の檜原村村民課担当者より10月20日の開催としたい旨の申し出について説明され関係役員の日程等確認の上同意承諾することとされた。

7月移動理事会 平成26年7月22日(火) フォレスト・イン昭和館「花林」

[出席者：玉木・鹿児島・江本・奥村・小林・朱膳寺・土田・馬場・古川・松山・宮城・中野・横田]

【1】報告事項

- (1) 都医地区医師会長連絡協議会報告
資料に沿って都医からの伝達事項等会議の内容について紹介報告された。
- (2) 各部報告
・広報部 改選された役員の「就任の挨拶」を広報に掲載予定のための原稿の執筆依頼について。
- (3) 地区会報告（各地区理事）
青梅市
福生市
羽村市
あきる野市 7月14日医師とケアマネージャーとの懇談会を開催
瑞穂町
日の出町
- (4) その他報告

下記三事項について会長より報告された

- 「平成 26 年新事業年度 西多摩三師会事業方針 会長（案）」について。標記資料が配布され、内容等について報告された。
- 「西多摩各市町村首長 等訪問の件」。標記資料及び首長等との面談アポイント状況が配布され、内容等について報告された。
- 「東京都医師会文書管理システム閲覧の促進について」。標記資料が配布され、閲覧を促進することについて及び今後の連絡手段整備方針について説明された。

【2】報告承認事項

(1) 入退会会員、会員異動について

— 承認 —

資料により標記について紹介され、正会員 1 名・準会員 4 名の入会が承認された。

(2) 「認知症疾患医療・介護連携協議会委員委嘱ご依頼状」について

— 承認 —

玉木一弘先生・土田大介先生に標記委員を委嘱したい旨の依頼について説明され、本人の承諾もあることから依頼について承認された。

(3) 「平成 26 年度東京都在宅療養研修事業にかかる在宅療養研修の実施について」

— 繼続 —

都医からの標記通知について会長より紹介され、リーダー研修への参加や事業の実施について調整等を会長に一任、内容が固まってから再度協議することとした。

【3】協議事項

(1) 各部の部員について

— 可決承認・一部繰越 —

資料により公衆衛生・広報・学術・病院の選定された部員について説明され承認された。その他については次回理事会までに調整し選定することとされた。

(2) 「東京都大気汚染医療費助成制度を継続させるためのお願い」及び「東京都大気汚染医療費助成制度」存続へのご協力のお願いについて（継続審議分）

— 否決 —

本件に係る都医の対応等の情報が紹介され、再協議した結果、今回の標記に関する依頼には応じないこととすることが提案され承認された。

(3) 西多摩健康危機管理対策協議会（感染症地域医療体制ブロック協議会）委員の就任について（依頼）

— 可決承認 —

資料により標記依頼事項が紹介され、前回同様鹿児島武志先生・江本浩先生を推薦することが提案され、本人承諾の上可決承認された。

【4】その他

(1) 「多摩懇」運営準備チームの第 1 回会合について

総務部長より標記会合を 8 月に開催したい旨表明された。

◇学術講演会予定

26.8.22

開催日	開始～終了時間 開催時間	会 場	単位数	カリキュラムコード	集会名称・演題	講師（役職・氏名）
9.18 (木)	19:30 ～ 21:10	羽村市生涯学習センター「ゆとろぎ」	1.5	13,43,64	講演①「実地医家におけるアピキサバンの処方経験」～より安全に使用するため凝固検査の活用法～ 講演②「心房細動の病態と治療」～新規抗凝固薬の使い分けを考える～質疑応答	(医社) 永寿会 三鷹中央病院 循環器内科 部長 上ノ畑 真先生 日本医科大学内科学 (循環器内科学) 主任教授 清水 渉先生
10.7 (火)	19:20 ～ 21:15	青梅市立総合病院 講堂	1.5	10,46,79	第18回青梅呼吸器勉強会 演題1：「胸部X線写真読影・解説」 演題2：「症例検討 診断に苦慮した症例」 特別講演：「慢性咳嗽の診断と治療（仮題）」	青梅市立総合病院 呼吸器内科 矢澤 克昭先生
10.15 (水)	20:00 ～ 21:00	青梅市立総合病院 講堂			第71回青梅糖尿病内分泌研究会 講演1「症例提示」 講演2「当院における糖尿病治療の進歩 (CGM)」	野本医院 院長 野本 正嗣先生 青梅市立総合病院 内分泌糖尿病内科 部長 関口 芳弘先生
10.17 (金)	19:30 ～ 21:10	フォレストイン昭和館			学術講演会 ～抗凝固療法を考える会～ 【特別講演】 「これでわかる！抗凝固薬の使い方と使い分け」 【アライザーを使用したQ&Aセッション】 「適切な抗凝固薬の普及に向けて」 ◆ NOAC 投与中の血液凝固モニタリングをどう考えるか ◆ 抗凝固療法中の出血事象への対応 ◆ 抗凝固薬処方時の効果的な患者指導法とは	東邦大学医学部 内科学講座循環器内科学分野 教授 池田 隆徳先生
11.5 (水)	19:30 ～ 21:10	羽村市生涯学習センター「ゆとろぎ」	1.5		学術講演会 ～高齢者への糖尿病治療薬の使い方を考える会～ 【第一部】 症例1 未定 症例2 未定 【第二部】特別講演 「オノリーワンのDPP-4阻害薬トラゼンタ」	未定
11.8 (土)	14:00 ～ 17:00	パレスホテル立川			多摩医学会研究発表講演会 ★西多摩医師会よりの発表 【一般演題】 ◆「後天性血友病の1例」 ◆「日本小児腎臓病学会により初めて作成される腎臓病検尿マニュアルの意義」 【特集演題】 ◆地域包括ケアシステムにおける医師会の取り組みについて	公立阿伎留医療センター 内科 土井 里実先生 他 公立福生病院 小児科 松山 健先生 他 西多摩医師会 玉木 一弘先生 他
11.14 (金)	19:30 ～ 21:15	青梅市立総合病院 講堂			学術講演会 【特別講演】 「末梢動脈疾患（PAD）における診断と集学的治療－現状での問題点と課題について－（仮）」	東京医科歯科大学 医学部附属病院 血管外科 科長 井上 芳徳先生

会員通知

- 会報5、6月号
- 宿日直表（青梅・福生・阿伎留）
- 西多摩医師会定時社員総会報告
- 西多摩医師会互助会報告
- 第39回青梅心電図勉強会（7/9）
- 第70回青梅糖尿病内分泌研究会（7/23）
- あきる野市学術講演会（7/23）
- 阿伎留医療センター医局講演会（7/28）
- 第24回西多摩消化器疾患カンファレンス（7/29）
- 医療施設における2014年度夏季の電力需給対策について
- 3歳児健診の検尿のフローチャート
- 東京都後期高齢者医療広域連合「保険証」および「減額認定証」の更新について
- 健康食品に関する安全性情報共有事業「被害事例」「共有シート」「アンケート」の貴会A会員への配布について
- 「医薬品・医療機器等安全情報制度」の報告様式の変更について
- 学校における色覚検査について
- 第1回従事者肝疾患研修会（7/27）
- 振り込み詐欺 ポスター
- 農薬の危害防止について
- 平成26年度毎月勤労統計調査に対する調査協力依頼について
- 平成26年度地域の診療所医師向け研修会（8/9）
- 〃 小児医療研修事業の実施について
- 不要になった水銀血圧計・水銀体温計の自主回収実施について
- 学術講演会（7/16、7/31、9/18、9/8、9/10）
- 多摩医学会研究発表会の一般演題募集について
- 訃報（宮城先生ご母堂様）
- 青梅市立総合病院がん診療セミナー（8/7）
- 平成26年第2期西多摩医師会諸会費請求書
- 「糖尿病と糖尿病予備軍のための講演会」in福生・羽村・瑞穂（9/6）
- 地域医療連携室直通電話設置のお知らせ（青梅市立総合病院）

- 産業医研修会（10/19 昭和大学医師会）
- 〃 （10/18 品川区医師会・荏原医師会）
- 〃 （10/4 東京医科大学医師会）
- 〃 （12/6 女子医科大学医師会）
- 〃 （9/21 千代田区医師会）
- 〃 （9/27 東京大学医師会）
- 〃 （10/11 江東区医師会）
- 平成26年度日本医師会医療安全推進者養成講座 講習会参加募集のご案内
- 都内におけるヘルパンギーナの流行に係る情報提供等について
- 児童虐待防止研修（9/4）
- 「がん治療連携指導料」の施設基準届出に係る連携保険医療機関の新規、追加及び届出内容の変更等について（平成26年10月1日算定）
- 子宫頸がん予防ワクチンの取り扱いについて（第3報）
- 平成26年度日本医師会「認定産業医」新規申請について（8月受付分）
- 平成26年度虎ノ門病院肝疾患診療連携研修会（9/21）
- 平成26年度第2回保育職員のための講習会（9/19）
- 第27回健康スポーツ医講習会（10/25.26）
- 改訂診療報酬点数表の概要（早見表）の訂正について
- 難病医療費助成の有効期限に関する重要なお知らせ（通知）
- 「小児在宅医療に対応できる医療機関名簿」への登録いただけるか否かのアンケートのお願い
- 東京都医師会・東京都共催「ぜん息患者最新治療及び子どもの食物アレルギー講演会
- 転院搬送時における救急車の適正利用について
- 平成25年度予防接種報告
- HPV（子宫頸がん予防）ワクチンの接種に当たって
- 摂食・嚥下機能支援チームアプローチに向けて
- 平成26年度第3回専門研修（児童虐待対応）開催のお知らせ（10/7）

- 東京都医師会平成26年度第2回学校保健（学校医）研修会開催要項（9/27）
- 平成26年度各科医会の紹介と入会のご案内
- 医療事故情報収集等事業「医療安全情報」の提供について
- 中小事業所向け熱電エネルギー・マネジメント支援事業等のお知らせ
- 予防接種法に基づく肺炎球菌感染症（高齢者がかかるものに限る）に係る定期の予防

- 接種に使用するワクチンについて
- 東京都都市緑化基金助成制度の周知について
- 厚生労働省Minds事業の普及に関するポスター・リーフレットの送付
- 西多摩医師会ゴルフ部コンペのご案内（10/5）
- 平成26年度東京都医師会主催「日本医師会生涯教育講座」第3期（1月～3月期）の開催について

医師会の動き

平成26年8月22日現在

医療機関数	200	病院	30
		医院・診療所	170
会員数	541	正会員	209
		準会員	332

会議

- 7月1日 第1回西多摩地域脳卒中医療連携検討会
- 4日 在宅難病調整委員会
- 8日 定例理事会
- 10日 在宅難病訪問診療（青梅）
- 10日 糖尿病医療連携打ち合わせ
- 22日 移動理事会・新旧役員懇親会
- 30日 100周年記念誌編集委員会
- 8月4日 多摩地区医師会懇話会開催運営準備会議
- 22日 広報部会
- 28日 学術部会
- 29日 学校医部会

講演会・その他

- 7月1日 第2回 在宅医療講座
 - 1. 症例検討
 - 2. かかりつけ医と後方支援
 - (ア) 紹介システム
 - 3. かかりつけ医と他職種協働
 - (ア) 訪問看護への指示
 - (イ) 在宅から必要な情報
 - (ウ) 文書の取り扱い方法
 - 2日 納涼の夕べ
 - 3日 学術講演会

- 演題：高血圧ガイドライン2014を活かす
演者：東京大学医学部附属病院 検査部 講師 下澤 達雄 先生
- 9日 保険整備委員会
- 16日 学術講演会
 - 演題：低身長のみかた
演者：東京都立小児総合医療センター 内分泌代謝科 部長 長谷川 行洋 先生
 - 17日 法律相談
 - 24日 糖尿病教室
 - 31日 学術講演会
 - 【一般講演】
演題：血圧4区分を考慮した高血圧治療について
～早期血圧の重要性を含めて～
演者：(医社) 悠救会 波多野医院 副院長 東京医科大学 地域医療指導教授 波多野 嗣久 先生
 - 【特別講演】
演題：ガイドラインと個別高血圧治療
－医療者の役割とジレンマー
演者：ライフ・プランニング・クリニック 所長 日本大学 客員教授 久代 登志男 先生
- 8月2日 西多摩医師会産業医研修会
- 7日 保険整備委員会

役員出張

- 7月5日 福生市学校保健会
 5日 羽村市学校保健会設立20周年記念式典・講演会
 11日 東京都医師会学校医会第41回評議員会・定時総会
 15日 西多摩三師会役員会
 18日 東京都医師会地区医師会長連絡協議会
 8月27日 東京都医師会 難病制度改正に関する担当理事連絡会

【入会会員】(正会員)

氏名 西木 俊一
 勤務先 (医財) 晓 あきる台クリニック
 出身校大学 東京医科歯科大学
 平成2年3月卒

氏名 室 愛子
 勤務先 (医財) 岩尾会 東京海道病院
 出身校大学 久留米大学 平成1年3月卒

【入会会員】(準会員)

氏名 木下 学
 勤務先 (医財) 利定会 大久野病院
 出身校大学 埼玉医科大学 平成3年3月卒

氏名 泉田 浩之
 勤務先 公立福生病院
 出身校大学 北里大学 平成22年3月卒

氏名 江口 正信
 勤務先 公立福生病院
 出身校大学 順天堂大学 昭和55年3月卒

氏名 保科 光紀
 勤務先 公立福生病院
 出身校大学 慶應義塾大学 平成6年3月卒

氏名 山内 宏一
 勤務先 公立福生病院
 出身校大学 防衛医科大学 平成9年3月卒

氏名 阿部 鑫子
 勤務先 (医社) 悅伝会 目白第二病院
 出身校大学 山梨医科大学 平成9年3月卒

氏名 大森 雅夫
 勤務先 (医社) 悅伝会 目白第二病院
 出身校大学 杏林大学 平成18年3月卒

氏名 川野 洋介
 勤務先 (医社) 悅伝会 目白第二病院
 出身校大学 杏林大学 平成23年3月卒

氏名 水上 忠臣
 勤務先 (医財) 岩尾会 東京海道病院
 出身校大学 日本医科大学
 昭和45年3月卒

【退会会員】(正会員)

氏名 富家 孝
 勤務先 (医財) 晓 あきる台クリニック

氏名 水上 忠臣
 勤務先 (医財) 岩尾会 東京海道病院

【退会会員】(準会員)

氏名 西木 俊一
 勤務先 (医財) 晓 あきる台病院

氏名 高田 裕平
 勤務先 公立福生病院

氏名 室 愛子
 勤務先 (医財) 岩尾会 東京海道病院

【管理者変更】

(医財) 晓 あきる台クリニック
 (新) 西木 俊一
 (旧) 富家 孝

(医財) 岩尾会 東京海道病院
 (新) 室 愛子
 (旧) 水上 忠臣

お知らせ

事務局より **お知らせ**

保険請求書類提出

平成26年10月（9月診療分） **10月8日（水）正午迄**

平成26年11月（10月診療分） **11月7日（金）正午迄**

法 律 相 談

西多摩医師会顧問弁護士 堀 克己先生による法律相談を
毎月**第3木曜日**午後2時より実施いたします。
お気軽にご相談ください。

◎相談日 **9月18日（木）**
10月16日（木）
11月20日（木）

◎場 所 西多摩医師会館
 ◎内 容 医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・
 刑事に関するどのようなものでも結構です。
 ◎相談料 無料（但し相談を超える場合は別途）
 ◎申込方法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。
 （注）先生の都合で相談日を変更することもあります。

あとがき



最近、新しいアンドロイド携帯電話に変えました。便利な機能が多くありますが、住所録の移し替え、パスワードの設定など人の倍以上の時間がかかり、使いこなせるのはまだまだ先のようです。技術の進歩といえば、電気自動車(EV:electric vehicle)の普及はめざましいものがあります。先日、ある自動車関係の雑誌で「ワイヤレス充電」という言葉を目りました。一般的にはEVの充電はコードを用いてのものが主体ですが、ワイヤレス充電とはコードを使用せず、非接触で電気を充電する技術で、将来的には家庭の駐車場はもちろん、コンビニやファミレスなどの駐車スペース、さらには交差点の道路下に充電器を

埋め込み、信号待ちの時に充電を行えるようになるなどの利用も考えられているようです。現代のテクノロジーには驚くことばかりです。

冷夏や暖冬などは、はつきりとした四季を持つ日本だけの言葉なのでしょうが、最近では、テレビなどで「異常気象」という言葉を何度も耳にする機会が多いです。今年も2月の大雪に始まり、異常な積乱雲によるゲリラ豪雨や雹（ひょう）など・・・。夏は暑く、冬は寒いは当たり前の事ですが、最近では人命に影響を及ぼすような気象異常が多いように感じます。8月以降は、人体にも負担がなく、農作物にも被害のないような季節変化であつてほしいものです。

双葉クリニック 松崎 潤

表紙のことば

新執行部集合写真

(平成26年7月22日フォレストイン昭和館にて)

前列左より、横田卓史、奥村徹、江本浩、
玉木一弘、鹿児島武志、宮城真理、中野和広、後列左より、土田大介、小林康弘、松山健、
朱膳寺洋文、馬場眞澄、古川朋靖

(広報部)

訃報

玉木 のり様 (享年86才)

福生市加美平3-35-13
(医社)幹人会 福生クリニック

理事長 玉木 一弘 先生(ご母堂様)

去る平成26年6月17日 ご逝去されました。
謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈りいたします。

訃報

内山 淳子様 (享年84才)

福生市福生1298
(医社)福耳会 内山耳鼻咽喉科医院

理事長 宮城 真理 先生(ご母堂様)

去る平成26年7月20日 ご逝去されました。
謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈りいたします。

社団法人 西多摩医師会

平成26年9月1日発行

会長 玉木一弘 〒198-0042 東京都青梅市東青梅1-167-12 TEL 0428(23) 2171・FAX 0428(24) 1615

会報編集委員会 古川 朋靖

土田 大介 鹿児島武志 奥村 充 神尾 重則 近藤 之暢

菊池 孝 進藤 幸雄 渡邊 哲哉 松崎 潤 松本 学

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428(22) 3047・FAX 0428(22) 9993

人から人へ

信頼のヒューマンリレーション。
医薬品ネットワークが結ぶ、健康への希望。

医薬品・試薬・医療機器の総合商社

東邦薬品株式会社

〒155-8655 東京都世田谷区代沢5-2-1 TEL.03(3419)7811(大代表)

[SIMPLE] × [SPEEDY]



日々の診療を支える 電子カルテ、「クオリス」。



＜製品の特徴＞

- わかりやすい・操作しやすい画面レイアウト
- 診療アラーム機能搭載
- 使いやすい
- 外注検査のオンライン（指定検査会社）
- 安心のサポート体制、セキュリティ構成



株式会社**ビー・エム・エル**
インフォメーションセンター
TEL: 049-232-0111

健康が 21世紀の扉を開く



命の輝きを見つめ続けて…

(株)武藏臨床検査所

食品と院内の環境を科学する

F・S サービス

〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢309-8
TEL 042-964-2621 FAX 042-964-6659